

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年2月10日

事業所名：第2こぼと園

保護者数80人 配布数74人 回収数54人 割合73%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いい え	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	49	4	0	1	・あちこちに楽しめるスペースがある ・家では走り回れないのでありがたい ・外のスペースがもう少し広いとよい(2)	①園庭が狭いため、散歩や近くの公園での運動遊び、山や海などの園外活動などを大切にとりこんでいます。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	50	3	0	1	・一人ひとりに声をかけてくれている	②職員の配置基準は満たしていますが、より丁寧な支援ができるように、又、子どもの見方やとくみについてより適切に行えるよう、職員の質の向上に努めます。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	43	9	0	2		③第2こぼと園は、元NTTの古い店舗をお借りしています。子どもたちにとってより良い環境になるように改修や修繕、様々な手立てを行ってきました。引き続き、皆様からのご意見を参考にしながら、子どもにとってより良い環境づくりに努めます。危険箇所は迅速に改善に努めます。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	49	5	0	0	・ブロックを入れる柵の扉で手を詰めないか、外から鍵かかかるので閉じこめられないか心配 ・清潔にするため消毒液がおりてあり、保護者にも使うよう指示されている ・掃除がされていて気持ちいい ・虫が入ってくることもあるが子どもは喜んでい ・仕方ないことだと思うが、床によだれ、つばなどが垂れるのは気になる ・清潔ではあるが建物が古いのが気になる	④清潔で心地よい環境であるよう努めます。また、活動に集中できるように環境を整理するよう工夫しています。皆様のご協力をお願いします。
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	50	2	0	2	・児童発達支援計画とは？	
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	47	1	0	6		⑤⑥⑦⑧第2こぼと園では、児童発達支援ガイドラインに基づき、次のような支援を行っています。 お子さんと保護者の方に一緒に通ってきていただき、楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるようにと取り組んでいます。(発達支援) そして、親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元氣と見通しが持てるように支援したいとと取り組んでいます。(家族支援) また、保育所や幼稚園・こども園などと併行通園されている方は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援しています。(地域支援) これらガイドラインに沿った内容で児童発達支援計画(個別支援計画)を立てています。一人ひとりのニーズに合わせてより適切な支援に努めます。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	48	2	0	4		
	⑧ 活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	47	1	0	6		
	⑨ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	29	6	10	9	・コロナで仕方ないが、電話や手紙などできる方法で連携してほしい	⑨日常的に保育所等との併行通園をされている場合が多いので、障がいのない子どもと活動する機会があるととらえています。

保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	54	0	0	0		<p>⑩希望者見学会、入園説明会、その他必要に応じて説明をさせていただいています。ご不明な点はいつでもお尋ねください。</p> <p>⑪～⑰ 親子で通っていただき、親子で一緒に遊び、活動し、活動終了後には保護者懇談の時間を必ず取り、活動の意味やこどもの様子について話し合います。狭義の「ペアレントトレーニング」という特別な手法を用いているわけではありませんが、その中で、できる限り、丁寧に説明したり、考えあったり、共有したりすることに取り組んでいます。直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通を図ります。時間の限られた中ではありますが、工夫と計画性を持って努力したいと思えます。</p> <p>日々の親子通園、保護者懇談に加えて、学習会や保護者教室、又前期・後期の保護者とのまとめの会などを行い、子どもの状態や課題などについて共通理解しとりくみを進めて行きます。</p> <p>2021年度はコロナ禍で大きな学習会ができず、学習の機会が少なかったことは残念でした。来年度は、感染対策をしながらより安全に学習会を開いて行きたいと思えます。</p> <p>今回も、事業所の保護者評価、自己評価をもとに、園のあり方や支援の在り方を見直し、よりよいものにしたいと思えます。</p>
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	48	2	0	4	・児童発達支援計画は渡されただけで特に説明は受けていない	
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	43	7	1	3		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	46	6	1	1	・活動日に欠席しても電話をくださり、相談する機会を作ってください	
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	50	2	1	1	・話したいときはあるけどタイミングがつかめず話しかけにくい。グループ懇談では話しにくいこともあるので個別でゆっくり話せる場があるとありがたい	
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	35	9	4	6	・コロナにより機会が減っている	
	⑯	子どもや保護者からの相談や甲入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や甲入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	49	2	0	3	・入り口のカギの対応もすぐにご確認くださいありがとうございます	
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	52	2	0	0		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	48	3	0	3		
非常時等の対応	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	49	2	0	3	・十分注意されている	<p>○個人情報の取り扱いについては、入園時に同意していただいています。</p> <p>○お互いを理解し合うことと、個人情報の保護とのバランスをとりながら保護者支援をしています。</p>
	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	48	3	1	2	<p>・一度も訓練を受けたことがないのでわからない(2)</p> <p>・コロナについては説明があった</p>	<p>○避難訓練は、各グループ年1回は実施するよう計画していますが、欠席などの場合には経験できない場合もあり、検討が必要です。</p> <p>○地震や津波に対する避難訓練や対応については、早急に訓練を実施できるよう計画したいと思います。</p> <p>○コロナ対策では、園独自のルール(県外移動の場合の登園の制限、公共交通機関を使わない通園、食事やトイレ使用時の消毒など)を働き、ご協力いただきありがとうございます。</p> <p>○全園いたるところで様々な災害が生じている状況もふまえ、緊急時の気象情報や避難情報の把握と対応(保護者との連絡や関係機関との連携)を図り、子どもたち・保護者の皆さんの安全を守るよう努めます。</p>
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	49	2	2	1	<p>・もう少し訓練があってもいい</p> <p>・一度しか参加できていないが、ちゃんとできていた</p>	
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	53	1	0	0	・子どもは毎回とても楽しみにしている(6)	子どもにも保護者の皆さんにも満足してもらえるよう、引き続きニーズを把握し、努力していきます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	51	3	0	0	<p>・先生、保護者、友だちと遊んですごのがとても楽しい</p> <p>・コロナのための時短は残念だが仕方ない</p>	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

公表: 2022年 2月 10日

事業所名: 第二こぼと園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	4	1	・グループによっては大人数で密を避けにくい	○園庭が狭いため、引き続き、散歩や近くの公園、山や海などの園外活動などにとりくむ。
	② 職員の配置数は適切である。	4	1		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	5	0	・職員間で話し合い、不要なものは処分して環境整備に努めている	○職員の配置基準は満たしているが、職員が休んだ際などには、本体施設のセンターから応援をあおぐとともに、職員体制整備・充実のための意見を関係団体の協議の場に挙げていく。 ○清潔で心地よい環境であるよう、保護者の協力も仰ぎながら努力する。保護者の声に対しては迅速に対応する。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	4	1	・積み木の棚や砂場道具のカートなどを購入し、子どもが安全に過ごせるように環境を整えている ・空間が狭く外遊びの場も狭い	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	5	0	・職員が揃いやすい朝の時間に行っている	○担当者会議、研修、ケース会議、など、取り組みの振り返りや見直しを行っているが、時間をかけてじっくりと行うことが難しい。時間の使い方、働き方などを検討・工夫しながら、適切に行っていくよう努力する。 ○保護者評価、事業所の自己評価をもとに今後生かしていく。 ○第三者による外部評価は未実施であり、今後必要に応じて実施を検討する。 ○内部研修・外部研修などを計画的に行い、職員の学ぶ意欲を高め、職員の専門性や人間性を高めるように努める。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	5	0	・保護者からの意見を職員で共有し、改善につなげている	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	5	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	2	3		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	5	0	・勤務時間内には難しいことが多い	
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	5	0		
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	4	1		○第二こぼと園では、児童発達支援ガイドラインに沿った支援を次のように行っているが、さらに充実させるように努める。	

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	5	0		①親子通園で楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいる。(発達支援) ②親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元気と見通しが持てるように支援したいと取り組んでいる。(家族支援) ③関係機関との連携、特に保育所や幼稚園・こども園などと併行通園している場合は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援している。(地域支援)
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている。	5	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている。	5	0		○子どもに合わせた適切な支援を行うよう、アセスメントを行い、児童発達支援計画を立てて活動プログラムを考え、日々の振り返りを通して次の活動にフィードバックしている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	5	0	・いろいろな職員の助言・アドバイスをもとに工夫している	○子どもの状態に合わせて適切な支援を行うよう、アセスメントを行い、児童発達支援計画を立てて活動プログラムを考え、日々の振り返りを通して次の活動にフィードバックしている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している。	2	3	・個別療育はしていないが、その子にあった支援を職員間で話し合い作成している	○時間的な余裕がなく、職員全員で共有したり、明文化することなどが課題である。時間の使い方を工夫し、職員全員で共有したり明文化することに努める。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	5	0		○日々短時間でも時間を有効活用し振り返り、見直しを行っている。日々の反省の中で、常に保護者の声などをフィードバックして、療育の質の向上に生かそうと努力している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。	5	0	・複数の職員で振り返りを行うことでとても貴重な時間になっている	○活動プログラムや活動内容は、子どもの状態に合わせて適切に行われていると思われるが、さらに研修や検討を重ね、療育の質を向上させるよう努める。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	5	0		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	5	0	・半年ごとに行っている	
	関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	4	1	
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	4	1	・保育所との連携を電話で行っている	○医療的ケア児ではない場合でも、必要があるときには、医療機関への紹介や情報共有などを行う。
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	4	1		○併行通園している保育所、幼稚園、子ども園との連携は重点を置いており、療育懇談会(年1回、グループごと、公開療育と懇談会)を設けて直接会って情報共有したり、研修会(療育研修会・聴覚障害研修会など)を開催することを計画していたが、新型コロナウイルスの流行により実施できていない。今後感染状況に応じて実施していきたい。
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている。	4	1		

この連携関係機関や保護者との連携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	5	0		○移行支援、他機関との交流や情報共有、研修などについては、継続して行う。 ※利用されている園児数が多く、必要に応じて、ニーズの高いケースより連携支援や移行支援などを行っている現状である。計画性をもって行っていく必要がある。		
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	2	3	・支援学級を選択した場合は、教育支援委員会の資料が学校に伝わる。通常学級の場合は保護者が希望すれば連携をとる			
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	2	3				
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	0	5				
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している。	3	2				
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	5	0			○保護者への支援は、引き続き、親子通園、保護者懇談会などの日常的な支援と、年数回の保護者教室や学習会などの学びの場を設け行っていく。そのために、職員の研修を行い、より質の高い支援を行っていけるよう努力する。コロナ禍により保護者教室など規模の大きいものは参加できていないが、DVDで学習するなど機会の保障をする。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	5	0	・コロナ禍で時短もあったが、できるだけ降園前や自由遊びの時間には保護者に声をかけた ・保護者の思いを大切にしながら適切な支援ができるよう力をつけたい			
	保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	5	0			○ケースの多さから、一人ひとりに丁寧に児童発達支援計画などの説明が不十分である。今後は、前期・後期に1回ずつ児童発達支援計画の提示を含めて懇談を行うよう努力する。 ○日常的な保護者への説明や相談は行っているが、さらに保護者が相談しやすくなるように、職員との信頼関係を深め、職員が声をかけていくよう努力する。
		③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の供給すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	5	0			
		③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	5	0			
③⑮		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	1	4	・コロナ禍で難しい			
③⑯		子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	5	0				
③⑰		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	5	0				

非常時等の対応	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している。	5	0		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	5	0		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	2	3		
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	4	1	・マニュアル作成はしているが、訓練は実施できていない	<p>○想定される緊急時等のマニュアルを漏れがないように策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施するように努める。</p> <p>○避難訓練を、各グループ年1回は実施するように計画する。</p> <p>○全国いたるところで様々な災害が生じている状況もふまえ、緊急時の気象情報や避難情報の把握と対応（保護者との連絡や関係機関との連携）を図り、皆の安全を守るよう努める。</p> <p>○危険箇所に気づいたらすぐに対応するようにはしているが、マニュアル化が必要である。</p> <p>○各地で悲惨な虐待事件が報告される中で、虐待や身体拘束に関する研修を行い、日常に引き付けて考え、対処できるように取り組む。</p>
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	5	0	・火災の避難訓練は行っているが、地震や津波はしていない ・定期的な実施を心がけている	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している。	5	0		
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	5	0		
④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	5	0			
④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	5	0	・研修はしていないが職員間で話し合っている		
④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	4	1	・保護者に話しているが、児童発達支援計画には記載していない		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。